

- 問1 室町幕府の政治体制において、将軍に次ぐ最高職として「将軍の補佐役」を務め、幕政を統括した役職の名称を選択してください。(2025年 鹿児島公立入試 類似)
1. 管領 2. 執権 3. 老中 4. 摂政
- 問2 室町時代に発生した「土一揆」において、農民たちが借金の帳消しを求めて主に襲撃した対象として、最も適切なものを選びなさい。(2022年 滋賀公立入試 類似)
1. 土倉や酒屋などの高利貸し 2. 周辺の国を治める守護大名 3. 朝廷に仕える公家や貴族 4. 海外との貿易を独占する商人
- 問3 琉球王国が東アジアや東南アジアとの貿易で繁栄した背景には、当時の中国との密接な関係がありました。琉球王国が朝貢を行い、貿易を継続していた中国の王朝名を答えなさい。(2025年 秋田公立入試 類似)
1. 明 2. 宋 3. 元 4. 唐
- 問4 中世の日本における経済活動について述べた次の文の()に当てはまる語句の組み合わせとして正しいものはどれですか。「当時の様子を記した資料には、毎月決められた日に(a)が開かれている様子や、民衆の生活の中で(b)が取引の手段として定着している状況が記されている。」(2022年 奈良公立入試 類似)
1. a : 定期市 b : 貨幣 2. a : 楽市 b : 米 3. a : 問丸 b : 貨幣 4. a : 定期市 b : 布
- 問5 15世紀初め、沖縄本島に並立していた北山・中山・南山の三つの勢力を統一して琉球王国を建国した人物と、この国が東アジアの国々を結びつけて行った貿易の名称の組み合わせとして正しいものはどれか。(2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 尚巴志 — 中継貿易 2. 尚巴志 — 南蛮貿易 3. 足利義満 — 勘合貿易 4. 足利義満 — 中継貿易
- 問6 鎌倉時代から室町時代にかけて、宋へ渡った禅僧らによって中国から日本に伝えられた、墨の濃淡を用いることで自然の風景などを表現する絵画様式を選びなさい。(2025年 宮城県公立入試 類似)
1. 水墨画 2. 浮世絵 3. 大和絵 4. 南蛮画
- 問7 戦国時代の織田信長が「楽市・楽座」の政策をとった目的として、正しい説明はどれですか。(2022年 三重公立入試 類似)
1. 座が持っていた独占的な営業権を廃止し、市場を自由化して商業を活発にするため 2. 座の組織を強化し、寺社や公家が持つ経済的な権限をさらに拡大させるため 3. すべての商人を座に加入させることで、市場における税の徴収を確実にするため 4. 座の特権を武士階級にのみ与えることで、城下町の軍事力を高めるため
- 問8 15世紀前半、沖縄本島を統一した尚氏が首里を都として建国し、東アジアの広い地域を結ぶ海上交通の要衝として栄えた国の名称を答えなさい。(2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 琉球王国 2. 蝦夷地 3. 対馬藩 4. 松前藩
- 問9 室町幕府による大陸との貿易でもたらされた富や文化は、日本の生活様式に大きな影響を与えました。この時期、銀閣(慈照寺)の東求堂同仁齋に見られるような、畳を敷き詰め、床の間や机を備えた、現代の和室の原型ともいえる建築様式を何と呼びますか。(2026年 京都府公立入試 類似)
1. 書院造 2. 寝殿造 3. 唐造 4. 合掌造
- 問10 戦国時代の織田信長は、城下町の商工業を活発にするために「楽市・楽座」を実施しました。この政策が、それまでの「座」に対して及ぼした影響として正しいものはどれですか。(2023年 岩手県公立入試 類似)
1. 座の特権をさらに強化し、寺社への納税額を増やして財政を安定させた。 2. 座を幕府の直轄組織として再編し、全国の流通網を独占的に統制した。 3. 座が持っていた独占的な販売権を廃止し、誰もが自由に商売を行えるようにした。 4. 座の加入資格を武士に限定し、軍事目的での物資の調達を優先させた。
- 問11 15世紀から16世紀前半にかけて、琉球王国がアジアの各地域を結んで行った貿易について述べた文として、最も適切なものを選択してください。(2016年 佐賀公立入試 類似)
1. 明への朝貢貿易を通じて得た生糸や陶磁器などを、日本や朝鮮、東南アジア諸国に転売する中継貿易で利益を上げた。 2. 幕府から発行された朱印状を携え、東南アジア各地に日本町を建設して大規模な貿易活動を展開した。 3. ポルトガルやスペインの船と、銀を輸出する代わりに鉄砲やキリスト教を導入する南蛮貿易を主導した。 4. 明との間で勘合(合札)を用いて、倭寇と正規の貿易船を区別しながら、日本国内の特産品を輸出した。
- 問12 中世の日本において、物流の拠点となった港や交通の要所で活動した「問丸(といる丸)」の説明として、最も適切なものはどれですか。(2022年 長野県公立入試 類似)
1. 港などで物資の保管や輸送、委託販売を行い、物流の中継点としての役割を果たした。 2. 農村の家々に原料や道具を貸し付け、製品を買い取ることで生産を支配した。 3. 主要な街道に「駅」を設置し、公的な書状や役人を運ぶための馬を管理した。 4. 京都などの大都市において、有力な商工業者が集まり自治的な運営を行った。
- 問13 大航海時代において、コロンブスが大西洋を西に向かって航海するという、当時としては画期的な手段を選択した歴史的背景や動機として、最も適切な説明を選びなさい。(2017年 岩手県公立入試 類似)
1. オスマン帝国の台頭により従来の東回りルートが制限されたため、地球球体説に基づき西からアジアを目指した 2. アフリカ南端の喜望峰を経由する航路が荒天で通れないことが判明し、急遽ルートを変更した 3. アメリカ大陸の存在を既に知っており、そこにある広大な金や銀の鉱山を独占する目的があった 4. ポルトガルが既にインド航路を独占していたため、武力衝突を避けて未開の太平洋を横断しようとした
- 問14 北海道には、縄文時代につくられた「キウス周墳墓」などの遺跡が残されています。この北海道やその周辺諸島に古くから住んでおり、独自の文化を築いてきた先住民族の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。(2022年 沖縄公立入試 類似)
1. アイヌ民族 2. 屯田兵 3. 琉球民族 4. 渡来人

答え合わせ・解説

問1	答え 1 管領	室町幕府では、将軍を支え政務を統括するために管領という役職が設置されました。鎌倉幕府の執権や江戸幕府の老中と同じく、それぞれの時代の幕府における実務上の最高責任者を指しますが、室町時代特有の呼び名であることを区別する必要があります。
問2	答え 1 土倉や酒屋などの高利貸し	当時の農民は、生活費や年貢の支払いのために、土倉（どそう）や酒屋といった金融業者から借金をしていました。土一揆が発生すると、農民たちはこれらの高利貸しを襲い、借金の証文を破棄したり奪い取ったりすることで、実力行使による債務の免除を狙いました。これは「私徳政」とも呼ばれ、社会不安の一因となりました。
問3	答え 1 明	琉球王国は中国の明に対して朝貢を行い、臣下としての礼をとることで正式な貿易を認められていました。これにより中国の絹織物や陶磁器を安定して入手し、それを他のアジア諸国へ運ぶ貿易体制を確立しました。
問4	答え 1 a：定期市 b：貨幣	鎌倉時代には月に3回、室町時代には月に6回といったように、決まった日に開かれる市場を定期市と呼びます。この時代には中国から輸入された貨幣（渡来銭）が大量に流通しており、市場での取引は物々交換ではなく貨幣を用いて行われるのが一般的になっていました。「楽市」は織田信長などの戦国大名による自由貿易政策、「問丸」は運送業者を指すため、文脈に合いません。
問5	答え 1 尚巴志 — 中継貿易	琉球王国は1429年に尚巴志によって統一されました。地理的に日本、中国、東南アジアの間に位置していたため、それぞれの地域の特産品を仕入れて他国へ売る「中継（なかつぎ）貿易」によって繁栄しました。選択肢にある南蛮貿易は戦国時代にヨーロッパ諸国と行われた貿易であり、勘合貿易は足利義満が明との間でいった貿易です。
問6	答え 1 水墨画	鎌倉時代から室町時代にかけて、中国の宋や元との交流を通じて、禅僧たちが墨一色で描く手法を日本に持ち帰りました。これは禅宗の精神性を重んじる武士や僧侶の間で広く受け入れられ、のちに雪舟らによって独自の発展を遂げるようになります。
問7	答え 1 座が持っていた独占的な営業権を廃止し、市場を自由化して商業を活発にするため	「座」による独占権は、新しく商売を始めようとする人々にとって大きな壁となっていました。信長は、座の特権を否定して商人が自由に商売ができる環境を整えることで、自分の城下町に多くの商人を集め、経済を活性化させようと考えました。
問8	答え 1 琉球王国	1429年に尚巴志によって沖縄本島が統一されて成立した国です。都を首里（現在的那覇市の一部）に置き、中国の明との朝貢貿易を基盤としながら、アジア各地を結ぶ海上勢力として独自の文化を築きました。
問9	答え 1 書院造	室町時代の東山文化では、禅宗の影響を受けた簡素で奥深い様式が好まれました。特に、足利義政が建てた慈照寺の東求堂同仁齋に見られる、畳や障子、床の間、備え付けの机（付書院）などを持つスタイルは「書院造」と呼ばれます。これは、貿易を通じて入ってきた文化や富を背景に、武家の生活様式に合わせて発展したもので、現代の和室の直接的なルーツとなりました。
問10	答え 3 座が持っていた独占的な販売権を廃止し、誰もが自由に商売を行えるようにした。	織田信長は、城下町の繁栄と自身の権力強化を目指し、旧来の座の特権（独占権）や寺社による支配を否定する「楽市・楽座」を実施しました。これにより、特定の組織に属さない新しい商人も自由に商売ができるようになり、市場が活性化して領国内の経済が発展しました。
問11	答え 1 明への朝貢貿易を通じて得た生糸や陶磁器などを、日本や朝鮮、東南アジア諸国に転売する中継貿易で利益を上げた。	15世紀の琉球王国は、明との間で頻りに「朝貢貿易」を行っていました。当時の記録によると、琉球から明への朝貢回数は170回を超えており、これは安南やシャム（タイ）、日本といった周辺諸国と比較しても圧倒的に多い頻度でした。琉球はこの良好な関係を利用して、明から入手した生糸や絹織物、陶磁器といった高級品を、日本や朝鮮、さらにはシャムやチャンパーといった東南アジアの国々に転売する「中継貿易」を行い、莫大な富を築きました。選択肢にある「南蛮貿易」や「朱印船貿易」は後の時代の出来事であり、勘合貿易は主に室町幕府が行った形式です。
問12	答え 1 港などで物資の保管や輸送、委託販売を行い、物流の中継点としての役割を果たした。	問丸は、鎌倉時代から室町時代にかけて発展した運送業者です。主に港湾や交通の拠点に拠点を構え、荘園から送られてくる年貢米や各地の商品を預かったり、それらを輸送する船の手配、さらには商人と取引する委託販売などを担いました。農村に原料を貸し付けるのは江戸時代に広まった問屋制家内工業、駅での馬の管理は古代の駅制や江戸時代の伝馬制の説明です。
問13	答え 1 オスマン帝国の台頭により従来の東回りルートが制限されたため、地球球体説に基づき西からアジアを目指した	15世紀にオスマン帝国が成長して地中海東部の交易路を支配したため、ヨーロッパ諸国は高い関税を避け、アジアへ向かうための新しいルートを自力で探す必要に迫られました。コロンブスは地球が球体であることを確信しており、アフリカを南下する東回りよりも、大西洋を西へ進むほうがアジア（ジパングやインド）への近道であると考え、スペインの援助を受けて出発しました。
問14	答え 1 アイヌ民族	北海道や千島列島、樺太（サハリン）などの地域に古くから居住してきた先住民族です。彼らは自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の精神文化や、アイヌ語という独自の言語を持っていました。記述の「キウス周堤臺」などの縄文時代の遺跡に見られる文化とも深い関わりがあり、日本の歴史における先住民族として位置づけられています。